【山崎名誉主宰の俳句】

おおぜいで

山崎　聰

いっせいに柿色づきぬちちよははよ

とおい日のことも唐辛子ぶらさがる

いつからかにんげんあかく秋の虹

空青く木の柿あかく甲斐の谷

日の当るそこだけが冬峡の村

冬の陽がゆっくりのぼり彼はいま

もっと近くで見たいと思う冬の虹

座ったりしゃがんだりして冬の山

山は雪かかの村の人恙なきか

おおぜいで走り出すから雪が降る